社会に見られる課題の解決に向けて
選択・判断する力を高める社会科指導の工夫

――　「まとめる過程」における
資料や習得した知識を根拠にした討論的活動を通して　――

長期研修員　　田村　嘉崇

《研究の概要》

本研究は、問題解決的な学習の「まとめる過程」に焦点を当て、資料や習得した知識を根拠にした討論的活動を通して、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断する力を高めることを目指したものである。

具体的には、「まとめる過程」を以下の三つの場面に分け、本主題に迫ることとする。

1　再提示された資料から社会的事象を自分との関わりとして捉え直し、新たな課題を設定する「単元の学習を振り返る場面」

2　資料や習得した知識を比較・関連付けたり、多面的・多角的に考えたりして、新たな課題に対する考えをもつ「新たな課題を追究する場面」

3　資料や習得した知識を根拠にした討論的活動を通して、考えを再構成する「新たな課題を解決する場面」

キーワード　【社会ー中　社会に見られる課題　選択・判断　資料や習得した知識　討論的活動】

群馬県総合教育センター

分類記号：Ｇ０２－０３　平成３０年度　２６７集

Ⅰ　主題設定の理由

新中学校学習指導要領（平成29年３月公示）では、第２節社会における目標の（２）において、「社会的事象の意味や意義，特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり，社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力，思考・判断したことを説明したり，それらを基に議論したりする力を養う」ことが求められている。

平成30年度群馬県学校教育の指針解説でも、社会的事象の概念等に関する汎用性や応用性のある知識を獲得するために、用語や語句を含め具体的な事実に関する知識を習得し、それらを比較・関連付けるなどし考察、構想（選択・判断）する力を高めることが大切であることが示されている。

これらのことを受けて、研究協力校（以下協力校）において「あなたは18歳になったら選挙に行こうと思いますか」をテーマに事前アンケートを実施したところ、約60％の生徒が「行くと思う」と回答した。理由として「国のためになる」「自分の１票で変わることもある」などの記述が見られ、中学生の立場として、政治に関して少なからず興味をもっていることが推察される。しかし、約40％の生徒は「行くと思わない」「分からない」と回答した。その理由として、「まだ先のことだから」「誰を選んでも一緒」といったような記述が見られ、社会的事象を自分との関わりとして捉え、社会に見られる課題について選択・判断することができていないということも明らかになった。このことから、多くの生徒に社会と自分との関わりを意識させ、将来の日本を担う主権者として「自分に何かできることはないか」を考えることができるようにするためにも、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断する力を高める必要があると考える。

そこで本研究では、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断する力を高めるために、資料や習得した知識を生かし、それらを根拠にした討論的活動を取り入れる。

具体的には、「まとめる過程」において、まず、単元の課題に対するまとめ、振り返りを基に、再提示された資料から、社会的事象を自分との関わりとして捉え直し、新たな課題を設定する。次に、新たな課題を追究するために、資料や習得してきた知識を比較・関連付けたり、多面的・多角的に考えたりすることで、新たな課題に対する考えをもつ。最後に、新たな課題を解決するために討論的活動を取り入れることで、考えを再構成し、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断していく。

以上のことから、本研究では「まとめる過程」において資料や習得した知識を根拠にした討論的活動を取り入れることで、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断する力を高めることができると考え、上記の主題を設定した。

Ⅱ　研究のねらい

中学校社会科（公民的分野）において、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断する力を高めるために、「まとめる過程」における資料や習得した知識を根拠にした討論的活動を取り入れることの有効性を明らかにしていく。

Ⅲ　研究仮説（研究の見通し）

問題解決的な学習の「まとめる過程」に焦点を当て、課題を解決するために次のような仮説を立てる。

１　「単元の学習を振り返る場面」において、再提示された資料から、社会的事象を自分との関わりとして捉え直すことで、新たな課題を設定することができるであろう。

２　「新たな課題を追究する場面」において、資料や習得した知識を比較・関連付けたり、多面的・多角的に考えたりすることで、新たな課題に対する考えをもつことができるであろう。

３　「新たな課題を解決する場面」において、資料や習得した知識を根拠にした討論的活動をすることで、考えを再構成し、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断することができるであろう。

Ⅳ　研究の内容

１　本研究における単元の構想

社会科における基本的な単元構成としては、まず「つかむ過程」において、疑問や驚きをもてる資料から、単元の課題を設定する。次に「追究する過程」において、課題の解決に向けて情報を収集し、思考ツールなどを活用しながら分類・整理する。そして「まとめる過程」において、グループや学級全体での話合いを行うことで課題の解決へと向かっていく。しかし、このような単元構成では、「まとめる過程」で導き出された解決は、社会的事象の事実や知識を習得することはできていても、社会的事象を自分との関わりとして捉えることは十分にできていないと考える。

そこで本研究では、社会的事象を自分との関わりとして選択・判断することができるようにするために、「まとめる過程」を生徒の振り返りを基に、三つの場面に分ける。具体的には「単元の学習を振り返る場面」「新たな課題を追究する場面」「新たな課題を解決する場面」とする。

まず、「単元の学習を振り返る場面」において、今までの学びを振り返り、再提示された資料を基に課題を自分との関わりとして捉え直し、新たな課題を設定する。

次に、「新たな課題を追究する場面」において、資料や習得した知識を個人やグループ活動によって比較・関連付けたり、多面的・多角的に考えたりすることで、新たな課題に対する考えをもつ。

最後に、「新たな課題を解決する場面」において、資料や習得した知識を根拠にした討論的活動をすることで、他者の意見に触れることにより、考えを再構成し、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断し、単元全体の振り返りへとつなげていく。

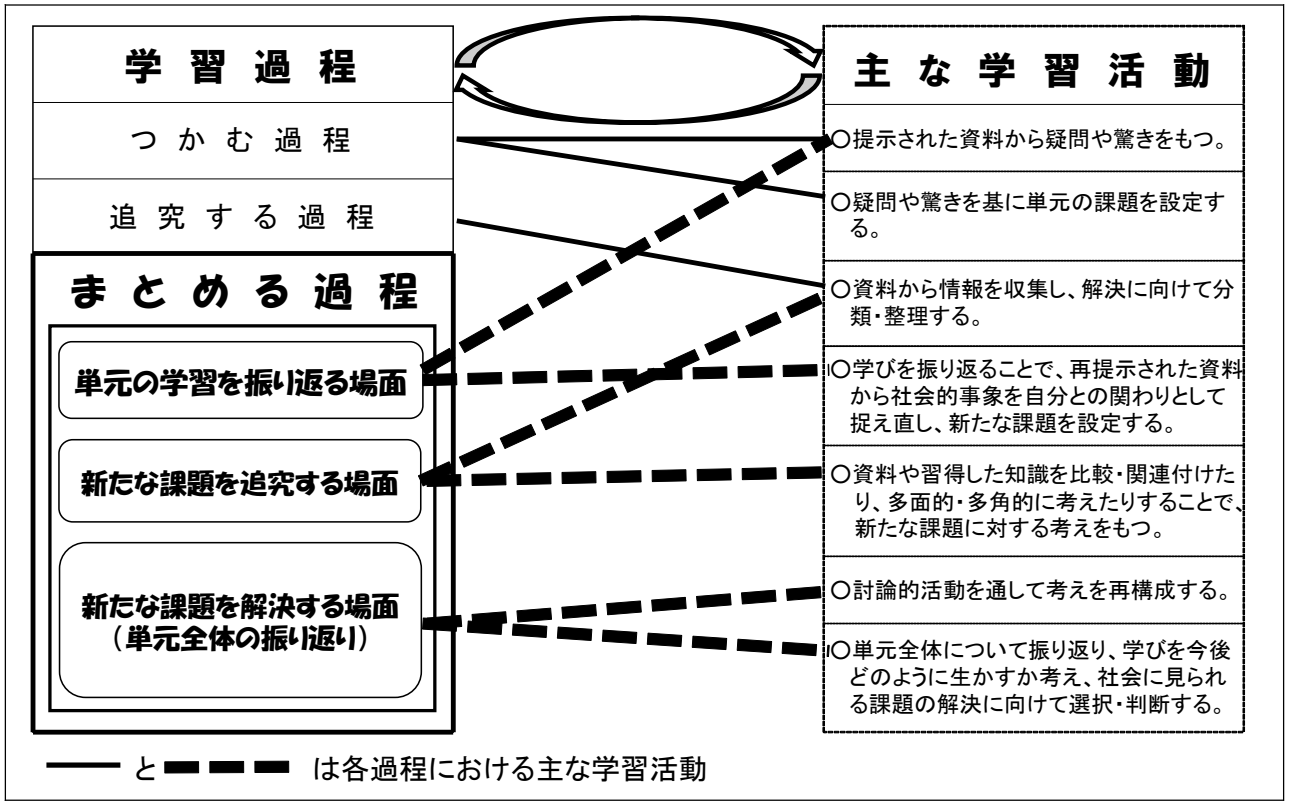


図１　単元の構想イメージ図

２　社会に見られる課題とは

新中学校学習指導要領解説社会編（平成29年７月）では、社会に見られる課題として、次のことを例示している。

①選挙権年齢の引き下げによる政治参加	②持続可能な社会の形成	③グローバル化への対応
④少子高齢化等による地域社会の変化	⑤防災・安全への対応	⑥情報化
⑦我が国固有の領土について地理的な側面や国際的な関係		

このことを受け本研究における具体的な関連を以下に示す。

※○数字は前ページの例示参照。

「現代社会と私たちの生活」	②、③、④、⑥
「個人の尊重と日本国憲法」	②、③、⑥
「現代の民主政治と社会」	①、②、⑤
「私たちの暮らしと経済」	②、③、④、⑤、⑥
「地球社会と私たち」	②、③、⑤、⑦
「よりよい社会を目指して」	①、②、③、④、⑤、⑥、⑦

3　選択・判断する力を高めるとは

新中学校学習指導要領解説社会編では社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断する力とは、『現実社会において生徒を取り巻く多種多様な課題に対して，「それをどのように捉えるのか」，「それとどのように関わるのか」，「それにどのように働きかけるのか」といったことを問う中で，それらの課題の解決に向けて自分の意見や考えをまとめることのできる力を意味している』と示されている。

このことを受け本研究では、選択・判断する力を高めるために、社会に見られる課題を生徒自身との関わりとして捉え、課題の解決に向けて考えさせていきたい。具体的には、公民的分野第３章「現代の民主政治と社会」の小単元「現代の民主政治」を取り上げ、「まとめる過程」において、国民の政治参加における課題（選挙制度、投票率の低さなど）についての自分の立場から解決策を考えていく。その際、「選挙に行く」や「ニュースを見る」などといったような回答や、友達の意見に流されるのではなく、これからの日本を支えていく主権者としての立場を踏まえ、資料や習得した知識を基に、「この国の未来は若者が決めていくべきだから、少しでも政治に興味をもってみんなで考えていくべき」などの選択・判断できる力を高めたいと考える。

4　討論的活動とは

本研究における討論的活動とは、よりよい社会の形成を目指し、社会に見られる課題の解決に向けて、例えば「選挙に行って自分たちの意見を伝えていくことが大切なんだよ」といったような、選択・判断する力を高めるための活動とする。

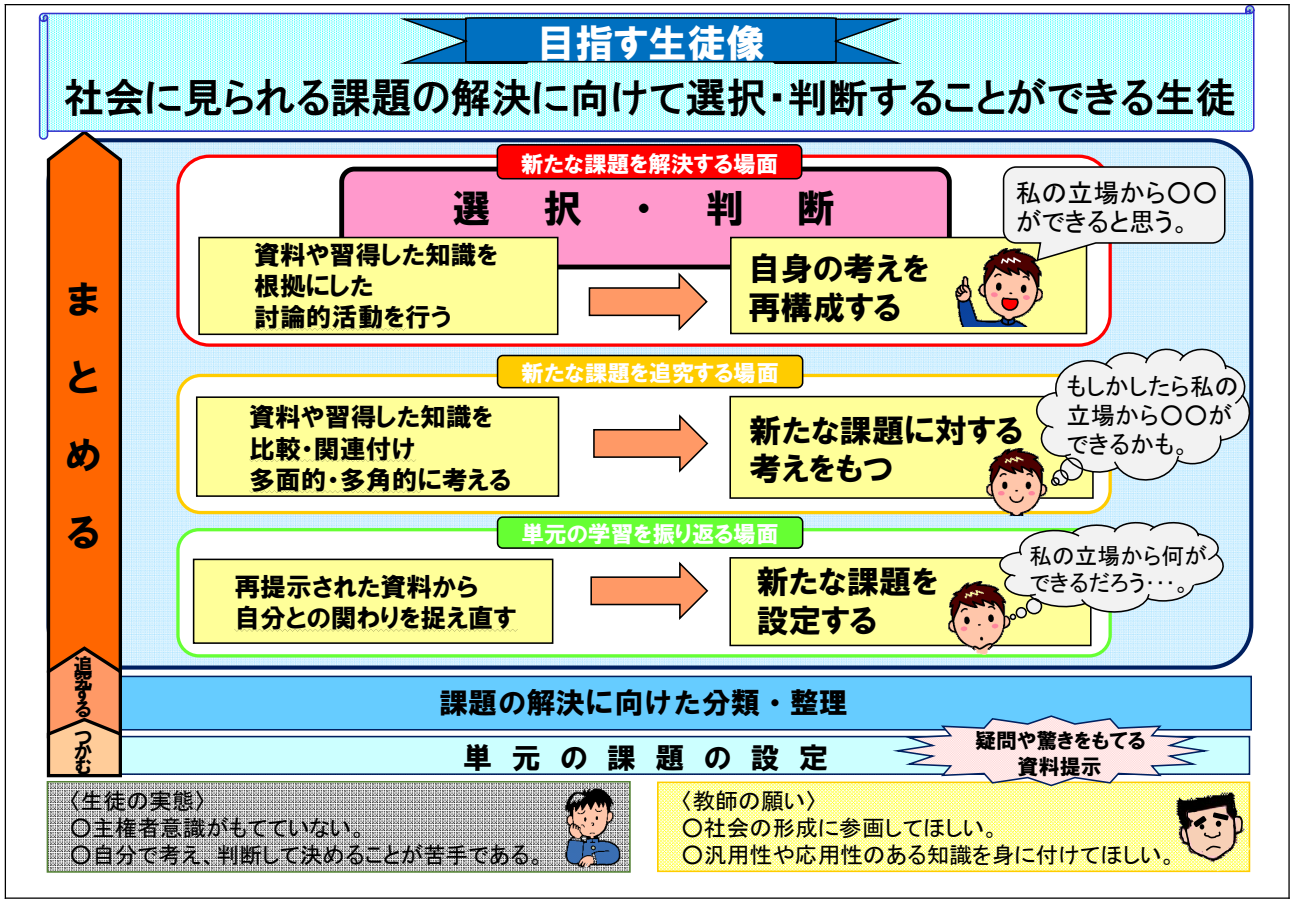
討論的活動は「新たな課題を解決する場面」に位置付け、その方法としては、まず、設定した新たな課題について「私にも何かできることはないかな」ということを問いながら、自分なりに課題の解決策をもつ。その後、グループで考えを共有し、一つの提案へとまとめ、討論的活動へと向かっていく。

図２　討論的活動のイメージ図

討論的活動の際には、公民的分野の学習全体を通して働かせることが求められる「対立と合意」「効率と公正」を、社会に見られる課題を解決していくための着目する視点とする。また、自分たちの提案について実現可能性も踏まえた討論的活動を行うことで、課題の解決に向けて多面的・多角的に考察し、選択・判断できるようにしていく。

このように討論的活動を繰り返すことで、生徒は新たな気付きをもち、考えを再構成し、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断することができるようになると考える。なお、活動の際教師は、生徒が考えをまとめたり、意見を言いやすいような雰囲気をつくったりするために、ファシリテーターとしての役割を務めていく。

5　研究構想図



Ⅴ　研究の計画と方法

1　授業実践の概要

対　象	協力校　第３学年２組　21名
実践期間	平成30年10月９日～10月23日　９時間
単　元　名	「現代の民主政治」
単元の目標	選挙を初めとする国民の積極的な政治参加が民主政治を支えていることに気付くとともに、主権者として政治の在り方について多面的・多角的に考察したり、討論的活動をしたりすることを通して、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断することができる。

2　検証計画

検証項目	検証の観点	検証の方法
見通し１	「単元の学習を振り返る場面」において、再提示された資料から、社会的事象を自分との関わりとして捉え直すことは、新たな課題を設定することに有効であったか。	・事前アンケート ・学習活動の様子 ・ノートやワークシートの記述 ・事後アンケート
見通し２	「新たな課題を追究する場面」において、資料や習得した知識を比較・関連付けたり、多面的・多角的に考えたりすることは、新たな課題に対する考えをもつことに有効であったか。	
見通し３	「新たな課題を解決する場面」において、資料や習得した知識を根拠にした討論的活動をすることは、考えを再構成し、社会に見られる課題の解決に向けた選択・判断をすることに有効であったか。	

３　抽出生徒

A	社会的事象について資料から課題やその要因を読み取り、事象同士を比較・関連付けるなどして考えることができる。グループの意見交流でも、自分の考えを伝えたり、友達の考えを取り入れたりすることもできる。また、それらを基に解決策を自分の言葉で表現することができるため、全体で活躍する場を設定したい。
B	社会的事象について資料から読み取ることができる。しかし、事象同士を比較・関連付けて考えることはあまり得意ではない。グループでの意見交流では、積極的に意見を言うことはできるが、友達の考えを取り入れることが苦手である。討論的活動で意図的に指名し、活躍の場を与え、社会的事象を自分との関わりで捉えられるようにしたい。
C	社会的事象について資料から事実を読み取ることができる。しかし、事象同士のつながりについて考えることは苦手である。また、グループの意見交流でも友達の考えを聞くことはできるが、自分の考えを伝えることは苦手である。グループ活動の中で意図的に役割を与えて活躍の場をつくりたい。

４　評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	資料活用の 技能	社会的事象についての 知識・理解
将来国政に関わっていく一市民として、身近な生活と政治との関係に関心をもち、これから自分はどのように政治と関わっていけばよいか意欲的に追究している。	選挙を初めとする国民の政治参加が民主政治を支えていることに気付き、望ましい政治参加の在り方について、資料の読み取りや話合い活動などを通して多面的・多角的に考察し、表現している。	最近の選挙に関する話題や各政党の政権公約などについて、新聞やインターネットなどを活用して資料を収集・選択し、複数の資料を比較したり、課題に即して読み取ったり、適切にまとめたりしている。	多数決の原理とその運用の在り方、選挙制度、政党や世論の役割などについて理解し、その知識を身に付けている。

５　指導計画

授業実践　社会科　３年２組　単元名「現代の民主政治」（全９時間計画）

［　　］はめあて、［　　］は本研究に関わる手立てを表す。

過程	主な学習内容	時間	表れてほしい 生徒の姿	評価項目	手立て
つかむ	・提示された社会的事象に関する資料などを読み取ることで、単元の課題を設定する。 ［資料を読み取り日本の政治について考え、単元の課題を設定しよう。］ **単元の課題：国民の政治参加にはどのような課題があるのだろうか。**	1	・なぜ若者の投票率が低いのだろうか。 ・政治参加にはどのような課題があるのかな。調べてみたいな。	・日本の政治が抱える課題に関心をもち、意欲的に追究しようとしている。 【関・意・態】	○疑問や驚きをもてる資料から読み取ったことを基に、興味・関心を高めることで単元の課題を設定する。
	・生徒会活動などの身近な事例を取り上げながら、民主主義とは何かを考える。 ・多数決の長所と短所について、経験を基にしながら考える。	1	・民主主義は国民一人一人が政治の主役になるという考え方なんだね。また、話合いで物事を決めることも大切なんだね。	・民主主義の在り方について考察し、表現することができる。 【思・判・表】	○各単位時間に、解決に必要な情報を集めたり、読み取ったりする。 ○集めたり読み取ったりした情報

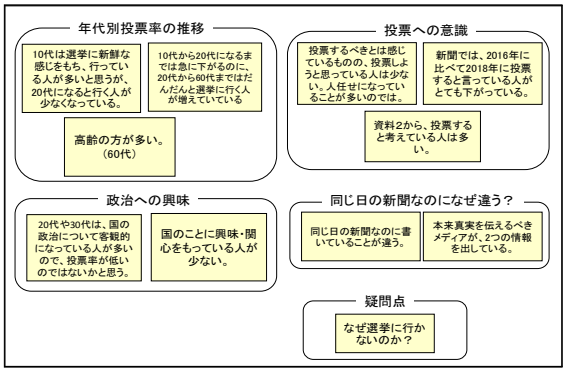
追究する	民主主義とはどのようなものなのだろうか。				をノートやワークシートに整理する。 ○整理された情報を、グループや学級全体で話合い、それを基に各単位時間のまとめとする。 ○個人の考えを図や表に表したり文章として表現したりしてまとめる。その際、根拠となるキーワードや資料を押さえる。 ○自分の考えの根拠を明確にしながら、ペアやグループで話合いを行い、自分の意見と他者の意見を比較・関連付けたり、多面的・多角的に考えたりする。
	・日本の選挙制度について調べ、そのあらましを理解する。 選挙はどのように行われ、どのような特徴があるのだろうか。	1	・日本の選挙は４原則の下で行われ、国民の民意を反映できるものになっているんだね。	・選挙の意義と日本の選挙制度のあらましについて理解している。 【知・理】	
	・日本の選挙における課題と政治参加の方法について考える。 選挙の課題と政治参加の方法について考えよう。	1	・選挙には一票の格差や棄権などの課題があるんだね。 ・インターネットなどでの情報収集で政治参加できることも分かったよ。	・選挙に関する課題について、様々な視点から多面的・多角的に考察し、その結果を適切に表現している。 【思・判・表】	
	・政党は民主政治においてどのような役割を果たしているのか理解する。 政党は民主政治においてどのような役割を果たしているのだろうか。	1	・政党は私たち国民の意見を政治に反映させたり、政治の動きを伝えたりしなければいけないんだね。でも、本当に自分たちの意見が反映されているのかな。	・政党と国民の関係を正しく読み取り政党の役割について、具体的な事例に基づいて理解している。 【知・理】	
	・複数の新聞記事を読み比べ新聞社によって取り上げ方が異なることに気付き、その理由について考える。 国民はマスメディアの情報とどのように接していけばよいのだろうか。	1	・情報をそのまま信用するのではなく、いろいろな角度から批判的に読み取って、自分で判断することが大切なんだね。	・新聞記事の構成や内容を比較し、気付いたことや考えたことを適切にまとめ、表現している。 【思・判・表】	
まとめる	・今までの学びを振り返り、再提示された資料から、課題を自分との関わりとして捉え直すことで、新たな課題を設定する。 今までの学習を振り返り、新たな課題を設定しよう。	1	・若者の多くが政治に対して興味や関心をもっていないことが分かったよ。でもこれから先、本当にこのままでいいのかな。	・これから日本の政治に関わる上で、何が大切か考え、そのための方法を意欲的に追究しようとする。 【関・意・態】	**○再提示された資料から今までの学びを振り返ることで、元の結論を自分との関わりとして捉え直し、新たな課題を設定する。**
	新たな課題：これからの自分は何ができるか提案しよう。				
	・新たな課題追究のために資料や習得した知識を比較・関連付けたり、多面的・多角的に考たりしながら、課題に対する個人の考えをもつ。 新たな課題を解決するにはどうしたらよいのか考え、まとめよう。	1	・自分たちの考えを国政に反映させるには、やはり選挙に行く必要があるな。 ・選挙に行くように家族に声を掛けよう。	・資料や習得した知識から情報を適切に選択し、その情報から日本の政治が抱える課題の解決について読み取ったり、文章や図にまとめたりすることができる。 【技】	**○課題の解決に必要な情報を集めたり、整理したりしながら、個人の考えを図や表に表したり、文章として表現したりしてまとめる。その際、根拠となるキーワードや資料を押さえる。**
	・討論的活動を通して自身の考えを再構成したものを基		・将来の日本を今よりももっとよくす	・国民の政治参加における課題の解決	**○討論的活動をすることで、他者**

	に、単元全体の振り返りへとつなげる。 新たな課題について、討論的活動を通してまとめよう。	1	るためには、自分たちが政治に対して興味をもち、意見が政治にしっかりと反映されるよう候補者を選んでいく必要がある。そのためには選挙に行き、自分の意思を伝えたい。	に向けてよりよいものを選択・判断し自分なりの考えをもつことができる。 【思・判・表】	の意見に触れながら自身の考えを再構成していく。 ○これからの社会の在り方を考えるとともに社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断できるようにする。

Ⅵ　研究の結果と考察

○「つかむ過程」「追究する過程」における実践の概要

本研究における問題解決的な学習の「つかむ過程」「追究する過程」では以下のとおり実践を行った。

過程	時間	主な学習活動	
つかむ	1	・資料から疑問や驚きをもったことを付箋紙に書き出し、ＫＪ法によって仲間分けをした。 ・仲間分けしたものをグループで一つにまとめた。 ・グループごとの考えを全体で共有し、単元の課題「国民の政治参加にはどのような課題があるのだろうか」を設定した。	 図３　ＫＪ法による仲間分け
	2	・生徒総会や生徒会役員選挙の写真を基に「なぜ生徒総会や生徒会役員選挙が行われるのか」を問うことで、本時の見通しをもつ。 ・教科書の多数決の在り方についてグループで交流し、考えをまとめた。	なぜ生徒会役員選挙や生徒総会が行われるのだろうか？ ・生徒全員が知らなくてはならない話があるから。 ・「生の声」を届けるため。 なぜ生徒会役員選挙や生徒総会が行われるのだろうか？ ・より直接的な生徒の意見が交わせるため。 図４　ワークシートの一部
追究する	3	・今年度の生徒会役員選挙の写真を提示し「役員選挙がどのような方法で行われたか」を問うことで、本時の見通しをもつ。 ・選挙制度の変遷、選挙の４原則、小選挙区制と比例代表制のメリットとデメリットを確認した。	小選挙区制：・大政党の候補者が当選しやすく、多数派がつくられやすい。・死票が多くなる。 比例代表制：・少数の意見が反映されやすい。・議会が多数の小政党によって構成され、決定しづらくなる。 図５　ワークシートの一部
	4	・教科書の資料「国政選挙の投票率」「年齢別投票率」などを読み取り、本時の見通しをもつ。 ・グループで投票率を上げるためにはどうしたらよいか考える活動を行った。	投票率を上げるためにはどうしたらよいのだろう？ ・選挙に関心をもたせるために、学校で選挙のことを教える。 ↓ グループの考え ・学校で選挙のことを教える。 ・お宅訪問したり、選挙を義務化したりして、投票率を上げる。 図６　ワークシートの一部

追究する	5	・教科書にある各政党の公約一覧から、どの公約がよいかその理由まで考え、本時の見通しをもつ。 ・各政党が政権公約を実現するためにはどうしたらよいか、グループで考えた。	政党がより多く票をとるためにはどうしたらよいのだろうか？（グループで考えよう） ・ファンミーティングを開く。 ・その人を支持している人たちを集め、政治や政策などについて話し合う。（議員も含めて） 図７　ワークシートの一部
	6	・同日に同内容を扱った２社の新聞記事から気付くこと、分かることを発表し、本時の見通しをもつ。 ・教科書の新聞資料を活用し、グループで違いを読み取る活動を行い、メディアリテラシーについて考えた。	事実：エネルギー基本計画を閣議決定したこと。閣議決定の内容 Ａ社の意見・結論 反対：原発は巨大事故のリスクから免れられないため、石炭・火力などの開発などを優先させるべきだと言っている。 Ｂ社の意見・結論 賛成：太陽光と風力発電については、広い土地が必要と言っている。現時点では再生可能エネルギーは実現性に乏しい。 なぜこのような違いが生まれるのか？ ・記事を書いている人が違うから。 ・書く人によって見方が違うから。 図８　ワークシートの一部

「つかむ過程」「追究する過程」の実践を受け、「まとめる過程」における結果と考察を以下に示す。

１　「単元の学習を振り返る場面」において、再提示された資料から、社会的事象を自分との関わりとして捉え直すことで、新たな課題を設定することができたか。

第７時

まず、導入において、今までの学習内容を生徒たちに問い掛け、本時の見通しをもつ活動を行った。生徒たちからは「若者の投票率の低さ」「政党政治における課題」「メディアリテラシー」などの意見が挙げられた。

次に、図９のように思考ツール（クラゲチャート）を活用し単元のまとめを行った。生徒たちは教科書や資料集、ノートを活用しながら各事象を関連付け、「若者の多くがの積極的に政治に参加していなく、興味や関心を抱いていない」「政治について人任せにしているからもっと自分ごとにしたほうがいい」などのまとめを記述をすることができ、その後振り返りを行った。なお、図10は、抽出生徒の振り返りである。

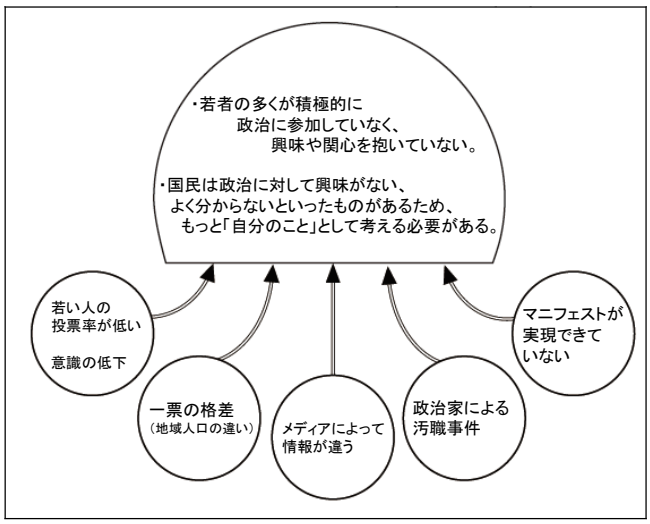


図９　思考ツール（クラゲチャート）

抽出生徒Ａ	・今まで政治について全く知りませんでした。興味もなかったです。けど、今回の学習で政治の仕組みや選挙、情報について知らなかったことをたくさん知ることができました。
抽出生徒Ｂ	・このまま選挙に対しての意識が低く、少子高齢化とともに投票率も低くなったら不安です。
抽出生徒Ｃ	・自分も政治について興味や関心がないので、これから大人になるにつれて考えていきたいと思った。

図10　抽出生徒の振り返り

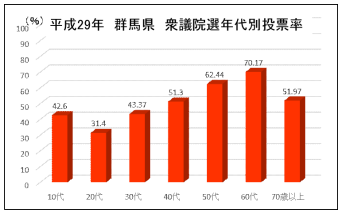
最後に、生徒が記述した振り返りを基に、新たな課題を設定する活動を行った。その際、生徒たちが記述した振り返りではまだ国民の政治参加における課題が解決できていないことに気付けるように、単元の「つかむ過程」で提示した資料を再提示した。具体的には、「群馬県の投票率を表したグラフ」「全国の高校生を対象とした意識調査のグラフ」などである。再提示の際には「本当にこのままでいいのか」など問い掛けたことで、生徒は国民の政治参加における課題を自分との関わりとして捉え直し、新たな課題「これからの自分は何ができるか提案しよう」を設定することができた。図11は、新たな課題を設定する場面の様子である。

T　：政治に興味がないという振り返りがあったけれど、この資料を見てください。
S１：全国も県内も若者の投票率が低いグラフだ。
T　：協力校の結果はどうでしたか。
S２：低いです。
T　：あれ。最初に見せた時は高いって言っていましたよね。
T　：ではこれは何だったでしょう。
S３：高校生の選挙に関する意識調査だ。
S４：2016年より意識が下がっている。
T　：まだ世の中にはこんな実態があります。このままでよいのでしょうか。
S５：よくないです。
S６：このままいくと将来はどうなるのかな。
T　：でも、今みんなは選挙に行くことはできるかな。
S７：できないです。
T　：どうしたらいいでしょうね。
S８：自分たちにも何かできることがあるのではないかな。

〰 は課題を捉え直す場面。
═ は新たな課題の設定場面。

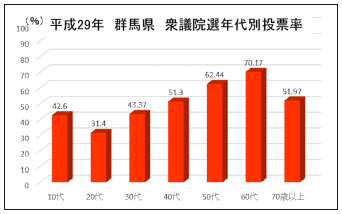
図11　新たな課題を設定する場面の様子

また、図12は、「つかむ過程」で資料を提示した時と、再提示した時の生徒のつぶやきをまとめたものである。これを見ると資料を再提示したことで、「自分の未来に関わることだし、このままではいけない」といったつぶやきもあったことから、生徒は再提示された資料から、国民の政治参加における課題を自分との関わりとして捉え直すことができていることが分かる。



単元の導入時

生徒のつぶやき
・20代の投票率が低い。
・60代が一番高い。
・10代や20代の投票率が低いのは何でだろう。
・これからも低下していきそう。
・若い人は選挙についてどう考えているのだろう。



再提示時

生徒のつぶやき
・このまま投票率が下がったらどうしようか不安。
・政治のことは難しいけれど、自分ももっと興味をもたないといけないと思う。
・自分の未来に関わることだし、このままではいけない。
・一人一人の意識を変えないといけないと思う。

図12　「つかむ過程」で資料を提示した時と、再提示した時の生徒のつぶやき

実践後に行ったアンケート「再提示された資料から課題を自分との関わりとして捉え直したことは、新たな課題を立てるのに役立ったか」のでは、「役立った」と回答した生徒は全体で98%に上った。また、「資料を再提示されたことで、もう一度現実を知ることができた」「資料を最初の時と違う視点で見ることができた」「自分たちに足りないことが分かった」などの記述を見ることもできた。

以上のことから「単元の学習を振り返る場面」において、再提示された資料から社会的事象を自分との関わりとして捉え直すことは、新たな課題を設定することに有効であったと考える。

2　「新たな課題を追究する場面」において、資料や習得した知識を比較・関連付けたり、多面的・多角的に考えたりすることで、新たな課題に対する考えをもつことができたか。

第８時

まず、授業前半に、前時に設定した新たな課題「これからの自分は何ができるか提案しよう」について、個人で自分にできることを考える活動を行った。自分の考えや話合いでの根拠とするように、現時点で国民の政治参加において課題となっていることを教科書や資料集から探し出したり、資料を比較・関連付けたりしながら考えをまとめていった。次ページ図13は個人で考えをもつ際に比較・関連付けた資料の一例である。生徒は以下のような資料を比較・関連付けながら、「若者が政治に対して魅力を感じていない」などと捉え、自分にできることとして、投票率を上げるために「選挙に行くように家族に声を掛ける」などの考えをもっていった。

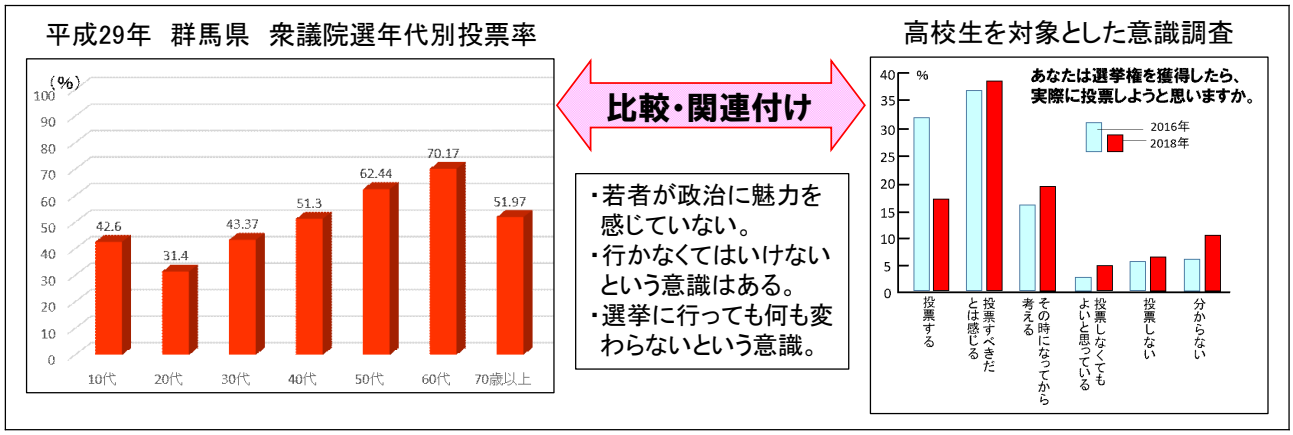


図13　個人で考えをもつ際に比較・関連付けた資料の一例

次に、授業後半では、討論的活動に向けてグループで個人の考えを交流し、一つの提案にまとめる活動を行った。グループ活動で個人の考えを伝える際には互いの資料を見比べたり、資料に対する個人の意見を述べたり、一人一人の考えを生かした討論的活動の際に、ほかのグループから質問される内容を予想したりするなどの姿が見られた。

さらに、生徒は、前時までに「国民の政治参加への課題」を自分との関わりとして捉えることができていたため、活動に対し目的をもって取り組むことができた。個人の考えをもつ際には、教科書、資料集や学習してきた内容を振り返り、「群馬県の投票率を表したグラフ」や「全国の高校生を対象とした意識調査のグラフ」などを見比べ、若者の投票率の低さを解消するための提案を考える姿も見られた。

また、グループ活動の際も、友達の意見に対し質問したり、賛同したりするなどの場面も見られ、新たな発見や気付きをもてた生徒もおり、多様な意見に触れることができた。図14は、抽出生徒が最初に考えた自分にできることであり、資料を活用し、自分の考えをもつことができたことが分かる。

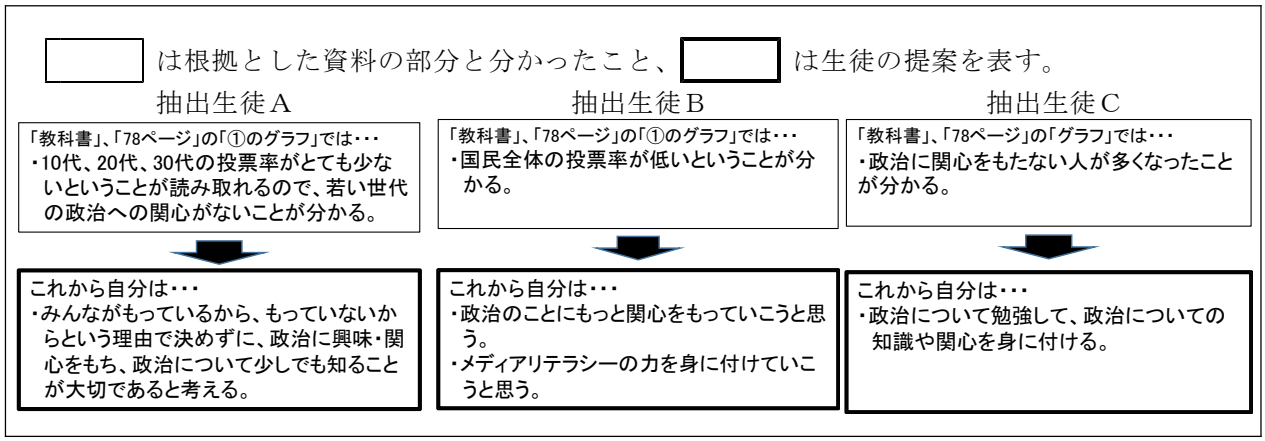


図14　抽出生徒が最初に考えた自分にできること

実践後のアンケート「自分にできることを考える際に、教科書や資料集、学習してきた知識を見比べるなどしましたか」では、「実際にどれくらいの人が政治に関心をもっているのか、どう思っているのかなど、教科書を見直したり、提示された資料を見比べたりしながらどうしたらよいか考えた」「自分の意見と事実を一貫したものにするために、ノートや資料集を比べた」などの記述が見られ、資料や習得した知識を比較・関連付けていることが分かった。また、「グループで自分たちの提案を話し合ったことは、様々な考えに触れることに役立ったか」という質問では、「友達の考えを聞いて、自分の見方とは違ったものがあることに気付き、なるほどと思うこともあった」「友達の考えを基に、自分の考えを見直すことができた」などの記述が見られ、グループでの話合いにより、多面的・多角的に社会的事象に対する考えをもつことができたことが分かる。

以上のことから、「新たな課題を追究する場面」において、資料や習得した知識を比較・関連付けたり、多面的・多角的に考えたりすることは、新たな課題に対する考えをもつことに有効であったと考える。

３　「新たな課題を解決する場面」において、資料や習得した知識を根拠にした討論的活動をすることで、考えを再構成し、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断をすることができたか。

第９時

単元の学習のまとめとして、討論的活動をした。その際、着目する視点を明確化し、既習事項である「対立と合意」「効率と公正」を柱とし、実際に提案の実現可能性を考えながら討論的活動をすることとした。図15は討論的活動の様子である。

まず、授業前半では、前時にグループで提案した内容を発表し、それ対して質問したり、質問に対する答弁を行ったりした。質問する時には提案の根拠を求める場面もあり、答える側は根拠となる資料やデータを示しながら意見を述べることができた。その結果、質問した生徒やそれ以外の生徒たちも意見や提案に納得したり、新たな気付きをもったりすることができた。さらには、自分たちのグループの意見とほかのグループの意見を比べながら、似ている部分などを組み合わせて、新たな考えを生み出し、深めることのできた生徒の姿も見られた。また、発表や説明時には実物投影機を活用し、資料を画面に大きく写すことで考えの根拠を全体に示し、全体を納得させる場面も見ることができた。

Ｓ１：資料集57ページのグラフで、若者が選挙に行かなかった理由として政治に興味もなく、よく知らないから行かないとあったけど、知識がないから政治に参加しないというのは問題だと思う。
Ｓ２：少しでも興味をもつためには、給食の放送を利用したり、友達と話す時間をつくったりすると興味が高まると思います。
Ｓ３：興味をもつというところで、体験的なものを取り入れてもいいと思う。例えば中学校でも模擬選挙をしてみるとか。
Ｓ４：生徒会役員選挙でも選挙しているからできるんじゃないかな。
Ｓ５：確かに興味はもてるけど、ここだけで話し合っててもなかなか変わらないんじゃないかな。
Ｓ６：もっと広く発信できることもあるかもね。
Ｓ７：僕は政治家になってみたいな。
Ｔ　：ここまでを受けて、もう一度考えてみようか。
〰 は生徒の考え、提案を表す。

図15　討論的活動の様子

次に、授業後半では、本時のまとめ、討論的活動を受けての単元全体の振り返りを行った。振り返りを書く際、新たな課題「これからの自分は何ができるか提案しよう」に対しての振り返りだけでなく、単元の課題「国民の政治参加にはどのような課題があるのだろうか」も踏まえた振り返りを書き、単元全体の学習を終了した。

図16のアンケート「討論的活動をしたことは、自分は何をすべきか、どう行動したらよいかを考えるのに役立ちましたか」からは、「今まで考えたことのないものがあり、討論をしたことによってよりよい判断をすることができ、これから自分がすべきことを考えることができた」「みんなで話し合ったことで、社会に見られる課題について自分のこととして考え、判断することができた」などという記述が見られ、討論的活動を通して考えを再構成し、新たに考えをもつことができたということが分かる。さらに、「自分一人でも政治参加することが、これからの政治・社会への貢献の一つである」「将来自分が投票しなければ、何も変わらないと思う」などの記述も見られ、自分のこれからの行動を選択・判断することができたことが分かる。

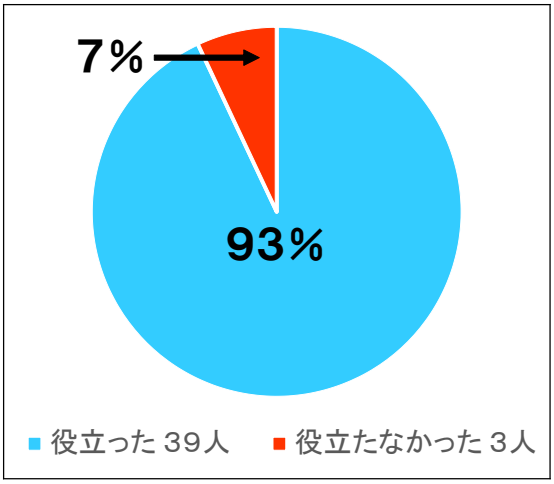


図16　アンケート結果

なお、次ページ図17は抽出生徒の単元全体の振り返りである。抽出生徒についても自分のこれからの行動を選択・判断した姿を見ることができた。

抽出生徒Ａ	・若者が政治に興味・関心をもってもらい、少数意見を尊重するために、政治家になったり、実際に政治を体験するなど、自分たちだけでもできることをコツコツ実現していく。
抽出生徒Ｂ	・今の政治参加は若者が投票せず、若者の意見が反映されないことがある。また、今の社会でもなお女性が不利な立場であることがある。なので、そのような格差がなくなるように今のうちに政治に関する関心を深め、周りの人も興味をもつような話をする。また、自分が社会で強い存在になれるように、勉強を頑張る。
抽出生徒Ｃ	・国民が政治に関して興味がないので、興味がわくように自分から進んで SNSを適切に活用したり、発表の機会を使ったりして周りに関心をもたせていく。

図17　抽出生徒の単元全体の振り返り

以上のことから、「新たな課題を解決する場面」において、資料や習得した知識を根拠にした討論的活動をすることは、考えを再構成し、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断をすることに有効であったと考える。

Ⅶ　研究のまとめ

１　成果

実践後のアンケート「あなたは18歳になったら選挙へ行こうと思いますか」では、「自分一人でも政治参加することが、これからの政治・社会への一つの貢献である」や「将来自分が投票しなければ何も変わらないと思った」などの記述が見られたことから、生徒の社会参画意識が高まり、進んで政治について考えていこうとする姿を読み取ることができた。

また、本実践の単元構想で授業を行った教師からは、「討論的活動を行ったことで、生徒の考えに深まりが生まれた」「選択・判断は今までの授業で意識したことはなかったが、討論的活動を行ったことで、生徒の思考の高まりが見られ、社会的事象を自分との関わりとして捉えさせることができた」などの意見を得ることができた。これらのことから、本実践を行ったことにより、生徒は社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断する力を高めることができたと考える。なお、本研究の見通しにおける成果は以下の通りである。

(1)　「単元の学習を振り返る場面」において、単元の振り返り後に「つかむ過程」で提示した資料を再提示したことで、社会に見られる課題を自分との関わりとして捉え直し、新たな課題を設定することができた。

(2)　「新たな課題を追究する場面」において、資料や習得した知識を比較・関連付けたことで、課題に対する自分の考えをまとめることができた。さらに、グループ活動を取り入れたことにより、他者の考えに触れ、多面的・多角的に考えることができ、新たな課題に対する考えをもつことができた。

(3)　「新たな課題を解決する場面」において、討論的活動をしたことで、多様な意見に触れることができ、自分の考えを再構成することができた。さらに、討論的活動の際、根拠となる資料を示しながら発表したり、着目する視点を明確化し、既習事項である「対立と合意」「効率と公正」を柱として、自分たちの提案が実現可能であるかどうかの論議も交わしたりしたことで、より選択・判断できるものへとつなげることができた

以上のように、「まとめる過程」において再提示された資料から、社会的事象を自分との関わりとして捉え直し、資料や習得した知識を根拠にした討論的活動を通して考えを再構成したことは、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断する力を高めることに有効であった。

２　課題

(1)　生徒にとって自分の関わりとして捉えられるような資料を精選し、どの場面でどの資料を提示すればより効果的か、更に検討していく必要がある。

(2)　「まとめる過程」に選択・判断する時間を設定するために、単元構想を工夫していく必要がある。

(3)　より活発な討論的活動にするために、自分の考え、グループの提案をまとめる時間を十分に確保し、根拠をしっかりと押さえておくことが必要である。また、より深まりのある討論的活動にするために、教師がファシリテーターとして積極的に生徒の意見を受け止めたり、他の生徒に投げ掛けたりする必要がある。

Ⅷ　提言

本研究は、公民的分野においてどの単元でも本研究の単元構想で実践できるとともに、第２学年地理的分野「身近な地域の調査」、第３学年歴史的分野「現在に続く日本と世界」の単元においても実践可能である。(別紙資料26ページ参照)

今後は各分野において選択・判断が位置付く単元を明確にし、継続的に実践することで、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断する力がより高まると考える。

さらに、これらのことにより、望ましい社会の在り方を構想できるようになることも期待できると考える。

＜参考文献＞

・文部科学省　『中学校学習指導要領解説　社会編』　(2018)
・群馬県教育委員会　『はばたく群馬の指導プラン』　(2012)
・群馬県教育委員会　『はばたく群馬の指導プラン　実践の手引き』　(2014)
・小原　友行　著　『思考力・判断力・表現力をつける社会科授業デザイン中学校編』　明治図書　(2009)
・澤井　陽介　著　『澤井陽介の社会科の授業デザイン』　東洋館出版　(2015)
・社会科教育１月号・ 705号　2018年１月１日発行　明治図書
・社会科教育３月号・ 707号　2018年３月１日発行　明治図書

＜担当指導主事＞

関　喜史　　小林　旭